http://www.jaaso.or.jp/

JAあそだより

平成20年10月

写真：小国雑畜産共進会（9月13日）

2008 秋 VOL.41

■今号16ページ主な内容

- ●稲作５年ぶりの豊作に高まる期待感！
- ●家庭菜園コンクール
- ●青壮年部研修会・盟友の主張・看板コンクール
- ●各生産部会だより ほか

阿蘇農業協同組合

本所　〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111／FAX 0967-23-1088

稲作5年ぶりの豊作に高まる期待感！

集荷対策会議で取扱を確認
JA阿蘇南部営農センター

JA阿蘇南部営農センターは9月2日、稲作協議会員・県普及指導課・県経済連・JA関係者ら34人が参加し、2008年産米集荷対策会議を開きました。各担当者より米穀情勢、後期水稲管理、08年産米の取り扱いについて説明が行われました。

08年の作柄状況は天候・生育ともに順調に進み、8月に発表された阿蘇地域の作況指数はやや良（102～105）で豊作が見込まれていますが、作況指数により発動される集荷円滑化対策への対応が懸念されています。主催者の南部稲作協議会の山室健蔵会長は「今年は作柄も良く5年ぶりの豊作。農家にとって豊作はうれしいことだが、価格低下が心配される。JAには販売面を強化してもらい、農家の手取りを少しでも多くしてほしい」とあいさつしました。（写真＝挨拶をする山室健蔵会長）

良質米生産に向けて講習会
JA阿蘇籾摺部会

「良質米を消費者に届けよう」と、JA阿蘇籾摺部会は9月4日、籾摺部会員・メーカー・県経済連・JA関係者ら約30人が参加し、籾摺り講習会を開きました。講習会では9月1日に阿蘇市で刈り取られた「阿蘇コシヒカリ」を使用し、メーカーより籾摺機の調整方法などの説明を受けました。籾摺りされた米は同JAの農産物検査員が分析を行い、粒も充実し一等の格付けがされました。

08年産米の作柄は、天候も良く大きな被害がなかったため、質・量ともに期待が持たれています。

「阿蘇コシヒカリ」の稲刈りは9月初旬より始まり、9月中旬にピークを迎えました。

農産物検査員の説明を聞く部会員

阿蘇コシヒカリを初検査
約7割が1等米

2008年産米の初検査が9月8日、JA阿蘇の内牧で行われました。当日はJA役職員や関係業者ら約40人が出席。神事では中尾雄二組合長らが玉ぐしをささげ、収穫期間の安全と高品質米を祈願しました。

08年度産米は台風等の自然災害もなく天候に恵まれたため豊作が期待されており、当日は阿蘇コシヒカリ594袋を検査しました。その結果、約7割が1等米でした。JA関係者は「昨年の収量よりも多くなることを願いつつ、食の安心安全の期待に応えられるよう検査に取り組みたい」と話していました。

地産地消フェアの取材スタッフ
後藤義文さん生産のトマトを絶賛

10月3日、熊本テルサ（熊本市）で行われた地産地消フェアの産地取材が7月24日、南部営農センター管内で行われました。同フェアは県内の安全・安心な農畜産物を一般消費者に広くPRすることを目的に開催されました。取材当日は、熊本日日新聞の生活情報誌「すぱいす」に掲載（8月23日）する広告取材も行われ、熊本テルサの土山憲幸総支配人も「自分の目で安全・安心な産物を確認し、消費者の皆さんに喜んでもらいたい」と取材に同行。

取材に応じたトマト生産者の後藤義文さんは「水と空気と自然は、どの産地にも負けていない。この大自然で育ったトマトを味わってほしい」と応え、栽培方法などを説明していました。

（写真＝当日朝収穫され、湧水で冷やされたトマトを「甘くて美味しい」と頬張る土山総支配人（右）と後藤さん

※超過米についてもJAでは通常販売価格となるので全量JAへ出荷お願いします。

JA阿蘇家庭菜園コンクール

「食の安全」を第一に考えた 永野キヨカさんに最優秀賞

JA阿蘇女性部は平成20年度「家庭菜園コンクール」現地審査を9月3日に行い、各地区代表5人の菜園を女性部長をはじめ各地区支部長と営農部園芸課職員らが場所の選定や種類・生育状況・施肥など9項目を審査しました。その結果、小国郷支部の永野キヨカさんが最優秀賞に選ばれました。

永野さんは「食の安全」を第一に考え、害虫類や除草等は農薬を使用しないように心がけ、少ない栽培面積の中で数多くの種類を植え、小国郷の朝市などにも出荷しています。自家製の「酒カス漬け」は皆さんに大好評で、健康を保つために畑仕事は生甲斐だそうです。

審査結果は11月5日開催予定の「JA阿蘇女性部フォーラム」で発表され表彰式が行われます。

地元の食材を生かして 夏バテ防止の料理講習

7月31日、夏の料理講習会が南阿蘇村で行われ、JA阿蘇女性部の白水支部・長陽支部・久木野支部から約20人が参加しました。家の光8月号をテキストに、掲載してある献立より抜粋した9品を調理しました。

食材には地元野菜も使われており担当職員は「この講習会で腕に磨きをかけ、暑さに負けず農作業を頑張ってほしい」と話していました。調理・盛り付け後、部員全員で試食し自分たちの作った料理の味を確かめ合っていました。

参加した部員は「他の部員とも交流できるいい機会なので、今後ともいろいろな交流の場として広がっていけば嬉しい。また何よりも、楽しく作ることが出来た」と感想を語っていました。

JA阿蘇年金友の会「親善ゲートボール・グラウンドゴルフ大会」

400人が元気でハツラツプレー

第8回JA阿蘇年金友の会「親善ゲートボール・グラウンドゴルフ大会」が9月6日、一の宮運動公園で開かれ、ゲートボールに32チーム165人、グラウンドゴルフに224人の選手が参加しました。

開会式では主催者を代表し井上惠会長（高森支部）が挨拶。中尾雄二組合長が祝辞を述べ、白水支部の田尻傑選手が選手宣誓をしました。競技ではそれぞれのコートで元気でハツラツなプレーが展開され、選手は楽しい1日を過ごしました。

田尻選手の宣誓

井上会長（左）の主催者挨拶

熱戦の結果、ゲートボールでは草部チームが、グラウンドゴルフでは北清二さん（白水支部）が優勝しました。上位入賞者は11月13日、パークドーム熊本で開かれる県大会に出場します。

その他の成績は次のとおり。

▼ゲートボール▽準優勝＝今町5チーム▽3位＝久木野Bチーム

▼グラウンドゴルフ▽準優勝＝佐藤イチ子（高森支部）▽3位＝中村一民（阿蘇町支部）

Gゴルフ優勝の北（右）、準優勝佐藤（中）、3位中村（左）の各選手

ゲートボール優勝「草部チーム」

盟友の主張・組織活動・手づくり看板・青年の歌　4部門で情熱を競う

第33回ＪＡ阿蘇青壮年部研修会「盟友の主張」最優秀賞に渡辺貴之さん

最優秀賞の表彰を受ける渡辺貴之さん

ＪＡ阿蘇青壮年部は9月4日、阿蘇地域振興局・ＪＡ関係者・部員ら約50人が参加し、研修会を一の宮中央支所で開きました。農業情勢が目まぐるしく変化する中、農業・農村の中核的担い手としてＪＡ運動をリードし、強いリーダーシップを持つことを目的に、盟友の主張・組織活動実績・手づくり看板コンクール、ＪＡ青年の歌発表の4部門で審査が行われました。盟友の主張では、最優秀賞に一の宮支部の渡辺貴之さんが発表した「魅力ある阿蘇の農業を目指して」（下記欄に紹介）が選ばれ、10月に八代で開かれる県大会へ出場します。

その他の結果は以下の通り。

▽組織活動実績発表＝高森支部
▽手づくり看板コンクール＝一の宮支部・高森支部
▽ＪＡ青年の歌＝岡田孝七（一の宮支部）

魅力ある阿蘇の農業を目指して

ＪＡ阿蘇青壮年部一の宮支部　渡辺　貴之

私は専業農家の長男として生まれ、小学生の頃から牛の世話等をしていて、自然と「僕は将来農業をやるのだ！」と、思うようになっていました。中学卒業後は阿蘇農業高校へ進学。林業科だったので農業のことよりも、公務員になるための勉強の方が多かったように思います。それよりも、3年間馬術部で頑張ったことの方が、今の私の心の支えの一つとなっています。

高校卒業後は地元の先輩が在学している事もあり、東京都多摩市にある農林水産省農業者大学校へ進学する事にしました。1年以上の農業研修を終えていることが入学条件だった為、熊本県立農業大学校付属畜産高等研修所で、畜産についての専門知識を学びました。また、ここでは人工受精師、大型特殊、危険物取扱者等のおおよそ農業者として必要とされる資格を取得する事が出来ました。しかし冬ともなれば絶対に零度を上回る事のない、外輪山の上での1年間の実習と寮生活。大変厳しいものでしたが、この時苦楽を共にした20名の仲間や先生とは、今でも親交を深めています。

農業者大学校では、半年の派遣実習を挟み3年間、北は北海道、南は鹿児島まで全国から集まった農業後継者たちとの自治寮の生活。毎晩の如く酒を酌み交わし、語り合うことも刺激的でしたが、やはり半年間の派遣実習に尽きます。私は福島県で黒牛繁殖を中心として施設野菜、米を作る複合経営の農家へ、住みこみでの実習をお願いしました。

28歳の息子さんと両親の3人での経営でしたが、実習初日の朝食前、息子さんとの20頭の繁殖牛の世話が終わった時でした。「農業なんかつまんねえべ！とっととやめちまったほうがいいぞ！」。思いがけない息子さんの一言に、私はたまがりましたが、おかげで、まだ学生気分の抜け切れていなかった自分に、これから始まる現場実習に対して気持ちを引き締めてくれるきっかけともなりました。

とにかく普通の農家だったので、限られた設備や圃場をいかに有効に活用し、効率的に仕事をしていくか。我が家の経営と重ね合わせながら仕事をし、勉強させてもらいました。

平成6年、農業者大学校を卒業後、即就農しました。その頃の我が家は、水稲、イチゴ、メロン、あか牛の繁殖という複合経営でした。私は子供のころからあか牛を眺めて育ち、研修所では種雄牛候補牛の管理を主にやっていたので、あか牛にすごく愛着がありました。ですから、複合経営をやるなら有畜でなくてはならない、牛はあか牛でなくてはならないという強いこだわりを持っていました。大学校の卒論のテーマでもあったのです。

先人が苦労して、改良が重ねられてきた、あか牛。それは第一ルデー号等の種雄牛をきっかけとして、阿蘇地方を中心に急速に発展しました。あか牛は阿蘇の大切な財産であり、文化でもあるのです。また、阿蘇は4万6千haの原野と、8千haを超える改良草地を有しています。粗飼料の利用性に富み、体質強健なあか牛は最も放牧に適した家畜なのです。

しかし、肉質が輸入牛肉と競合してしまう事もあり、平成3年の牛肉の輸入自由化以降、仔牛の価格も低迷を続けています。BSE発生後、アメリカからの牛肉

輸入がストップした影響もあり、一時期高値を続けた事もありましたが、昨年からの飼料高の影響による肥育農家の買い控えにより、じわじわと値を下げ、また自由化後の水準まで落ちています。飼料高の影響を受けるのは私たち繁殖農家も同じこと。やはり仔牛には草ばかりではなく、栄養たっぷりの仔牛用配合飼料を食べさせなければ、市場に出しても見栄えがしなくてダメなのです。いくらコストを抑えられる放牧利用型の畜産といえども、飼料代が5割増しでは限界があります。

かつて熊本県は、「あか牛を主体」とした県産和牛肉に「肥後牛」と名付け、ブランド化を図っていました。しかし、その定義の曖昧さでいまひとつ定着しなかったようですが、また新たに「阿蘇王」のネーミングでリベンジするという事なので、私もあか牛農家の一人として、様々な形でPRに貢献していかなければと思っています。また、あか牛を飼う盟友ともよく話すことですが、第16光重以降これといった種雄牛がなかなか出てこないのです。全国で飼われる黒牛と違い、そのほとんどが熊本県で飼われるあか牛です。少ない頭数の中から、種雄牛を作出し続けるということは大変なことです。私もこれまでは連産性が高く、子育ての上手な母牛を選定することに重点を置いてきましたが、これからはもっと血統にも配慮し、また試験種も積極的に活用しながら、優秀な種雄牛選出のスピード化にも貢献していきたいと思います。

私も就農して14年目。経営内容も水稲350a、イチゴ25a、グリーンアスパラ12a、あか牛の繁殖牛7頭に変わって行きました。私と両親3人での家族経営ですので、その労働力の範囲内で最大限の利益を上げることを心がけて地道に仕事をし、経営も安定させてきました。その間には、台風によりメロンが全滅したり、稲が水没したり、春一番にイチゴハウスのビニールがすべて剥がされ全滅したり、BSE発生で仔牛が数万円だったこともありました。しかしこの頃はまだ、再生産へ向けて頑張ることができました。

今はどうでしょうか。飼料代、燃料代の高騰、肥料代も6割増、ハウスビニール代も2割増。生産費は膨らんでも、農産物価格への転嫁ができない。そんな中、今年の夏野菜に至っては消費者の買い控えや、外食離れ等によるとみられる長期の安値が続いています。

これから冬にかけて暖房を焚きながら、イチゴを栽培してゆかなくてはならない私にとって、厳しい現状です。しかし、我が家の経営のメリットはここにあるのです。単一経営ではなく、複合経営であることにより、一部門の損失を他部門で補うことで、経営全体のリスクを最小限に抑える事ができるのです。阿蘇固有の財産、あか牛「阿蘇王」を絡めた複合経営が、阿蘇特有の有畜複合経営のモデルとなるよう、さらに我が経営を安定させる努力をしていきます。

7月25日に行われた、飼料・肥料・燃料等価格高騰及び木材価格低迷危機突破大会に盟友とともに参加しました。生産者の苦しい現状を訴える魂の叫びが、国や地方の行政、マスコミ、消費者にどれだけ真摯に受け止められたか。農家は武器を持たずに国家を支え、国防を担う後方支援の最強部隊であり、農家不在は必然的に国家再生ができなくなることを認識してもらわなければなりません。

我々はただガンバロウを叫びに集まったのではありません。他のJAでは具体的な金額を出し、援助に乗り出したところもあります。地元JAにも、早急に対策を求めます。

今年、私の地元、坂梨にも18歳の若き農業後継者が2人生まれました。早速、地元の盟友と「食事会」を催し、親交を深めました。彼らが青壮年部を理解し、本格的な活動を行えるのは、まだ先のことでしょう。私もまだまだ勉強不足なところもありますが、他の盟友と協力しながら、彼らを戦える農業後継者へと導いて行けたらと思います。

そして、「お父さんと、同じ仕事がしたい」と言ってくれた小学2年生の息子のためにも、農業がもっと魅力的なものになるよう、がんばっていきます。

手づくり看板コンクール入賞作品

高森支部

一の宮支部

出荷量・販売高とも前年度を上回り4億8千万円計上
中部いちご部会

挨拶をする甲斐二六部会長

ＪＡ阿蘇中部いちご部会は7月15日、07年度産反省会及び総会を阿蘇市で開き、部会員や行政・市場・ＪＡ関係者ら70人が出席しました。

甲斐二六部会長は「作付面積が1haほど増え、出荷量・販売金額ともに前年対比100％を超える結果となり、部会全体の努力の結果が出た。しかし近年においては重油の高騰やそれに伴う肥料の値上げなど、年々イチゴの栽培が厳しくなっていくような状況にある」とあいさつ。

今年は前年に比べ農家戸数で90％、栽培面積14・6haで107％、出荷数量191万4千パック（パック＝300g）で118％、販売金額4億8162万円で111％、10a当りの出荷量3・92tで前年を大きく上回りました。

指導員の浅久野職員は「当部会は、さがほのかを中心にした栽培であり、さがほのかの短所である年内収量アップを目標に置き、育苗期からの指導に努めたい」と語り、続いて関係機関より今年の情勢報告等が行われました。

また、07年度産の表彰も行われ、反収部門（反収400万円以上）の17名のほか、次の方々（敬称略）が表彰されました▽総販売高部門＝井野耕児、嶋野妙子、園田賢臣

生産者とＪＡが一体となって苦境を乗り越えよう
南部園芸総合部会

挨拶をする二子石部会長

ＪＡ阿蘇南部園芸総合部会は7月15日、第15回南部園芸総合部会総会を南阿蘇村で開き、各園芸部会部会長ら約60人が参加しました。

総会では07年度事業報告など3議案が承認・可決されました。

二子石富士夫部会長は「ＪＡへ生産者の気持ちが伝わっていない。各部会長は活発に意見を発言して、ＪＡと生産者とが一体となってこの苦境を乗り越えよう」とあいさつ。

また、中尾雄二組合長も「生産者の意見をよく聞いて、気持ちの分かるＪＡとして頑張っていきたい」と今後の意気込みを述べました。

天候に恵まれ肥大例年以上 9月上旬から甘藷の出荷始まる
ＪＡ阿蘇甘藷部会

西原地区では「ほりだし君」（甘藷）の出荷を控えた8月5日、同地区各圃場で株掘り調査を行いました。甘藷部会ではこの時期に毎年調査を行っており、この結果で出荷開始時期を決めることになっています。

当日は関係者20人が2班に分かれ各圃場3株の2ヵ所で、18圃場の芋掘り調査後、西原集荷所に持ち寄り色・形・生育状況を確認しました。

今年は定植後の好天候に加え、例年より早い梅雨明けで、肥大が例年以上に良く、9月2日より出荷が始まりました。年内の予定出荷量は250tを計画し、年明け以降の出荷最盛期には貯蔵分と含めて2000tを出荷予定です。

同部会では昨年より、役員市場視察時に指摘された品質の均一化改善を早急に行うために、毎日、出荷された中から各生産者1箱ずつ抜き取り、目揃え会を実施し、市場より高い評価を得ています。

出荷規格を検査する担当職員

色・形、生育状況を確認する関係者の皆さん

イチゴの半不耕起栽培で時間と経費を省力化

JA阿蘇南部苺部

小型管理機で作業を行う生産者

JA阿蘇南部苺部会(村上豊彦部会長)では、4年前より蘇陽地区で半不耕起栽培に取り組んでおり、作業時間や経費の省力化につながっています。

この栽培方法は、前年に使用した畝の表層10cm程度を小型管理機で耕うんする方法です。通常の作業方法は収穫終了後に施肥、整地後に再び畝を作るというもので、畝を作る時期の秋雨前線による雨で定植が遅れるということがありました。しかし半不耕起栽培を行うことで、雨により畝が崩れることもなく適期定植が可能となりました。

3年前よりこの栽培に取り組む田中千男喜さんは「作業時間が従来に比べ5分の1になった。畝の上にしか肥料を撒かないので肥料も3割少なめで十分出来る」と話し、JA担当職員も「作業時間の短縮や肥料代の軽減など生産者に喜ばれることもあるが、半面、灌水量の調整など難しい面もある」と話しています。

今年は昨年より生産者が1人増え5人で約60aの半不耕起栽培が行われる予定です。

イチゴ適期定植へ苗の花芽分化を確認

花芽分化を確認するJA担当職員

JA阿蘇南部苺部会では、08年産苺の定植を前に8月27日より花芽検鏡が本格的に始まった。当日は蘇陽地区の「さがほのか」の検鏡が行われ、盆過ぎからの気温低下などの影響もあり花芽の確認ができました。同部会では2年前より部会員全員が花芽分化を確認し、適期定植を生産者一人一人が心掛け、より安定した収量と品質を確保しようと二番花まで受けるようにしています。

JA担当者は「お盆以降から最低気温が昨年より2~3度低く、平均気温も低くなっているので、このまま気温が下がれば昨年より花芽は入りやすい」と述べていました。

阿蘇イチゴの定植順調に進む

JA阿蘇南部苺部会では9月2日より、08年産苺の共同定植作業が始まりました。同部会長陽支部で短期株冷処理した「とよのか」定植が田中敏夫さんの圃場で行われました。

今年は梅雨明けが早く、天候にも恵まれたことで例年並の苗が確保でき、花芽分化も昨年より5~7日程度早くなっています。各地区での定植は9月20日頃までに終了しました。今年度は生産者が26人(昨年比83%)で、作付面積は4.6ha(同85%)の予定。品種構成は「とよのか」が23%、「さがほのか」が77%となっており、「さがほのか」への品種移行が目立っています。

「きものまつり」多くの来場者で賑わう

JA阿蘇南部地区

(写真は試着する来場者)

JA阿蘇南部地区で9月13・14日、白水中央支所2階特設会場で「きものまつり」が開かれました。開会式にはJA・Aコープ・メーカー関係者ら約30人が出席。

栃原清子JA阿蘇女性部久木野支部長より「資材高騰や汚染米問題等で農家・農業を取り巻く環境は依然きびしい状況にある。しかしながら、日本の民族衣装である着物は将来、多岐にわたり広めていかねばならない文化と思う。沢山の方々に来場して頂き、皆が計画して良かった、楽しかったとの声であふれるよう、頑張って頂きたい」と挨拶がありました。

会場には七五三や振袖などの着物のほか、和装飾品や健康相談コーナーなどが設けられ、開会と同時に多くの来場者で賑わいました。

実りの秋に生育・出荷だより相次ぐ！

休耕田の有効活用で原料用ニンジンを栽培

JA阿蘇南部営農センター管内では7月27日より、原料用ニンジンの種まきが始まり、8月上旬まで行われました。同営農センター管内では、8年前より減反田や休耕田の荒廃対策として、ジュース用の原料ニンジン生産に取り組んでいます。生産者の笠野真喜さんは種まき当日、「今年は適度な水分があるので発芽は順調にいくと思う」と期待していました。

担当職員は「例年、発芽後の雑草防除ができておらず、予定出荷量を出せない生産者もいるので、今後の管理が重要」と話していました。

08年の作付面積は、生産調整の影響もあり85a（前年比60％）、生産者5人（同71％）、予定出荷量30tとなっています。

ヒゴムラサキの妖精…出現!?

高森町の森田勝さんのハウスに特産「ヒゴムラサキ」の妖精が現れ、話題になりました。つの状のものは雄すいのもとの部分が突き出たもので「舌出し果」と言われ、市場に出回ることはありません。今回の妖精は、JA職員が森田さんのハウスを訪れた際に発見したもので、氷の妖精「クリオネ」にも似ており、森田さんは「色々な形はあるが、味は変わらず美味しい」と話していました。

原料用ニンジンの生育順調 発芽状況と生育調査を行う

9月8日、原料用ニンジンの発芽状況と生育調査が行われました。調査に当たった担当職員は、「昨年に比べて発芽は良好。あとは除草がうまくいくかが今後の収量に大きく影響する」と話していました。

生育、玉肥大ともに良好 秋メロン出荷始まる 白水メロン部会

JA阿蘇白水メロン部会では8月29日より、秋メロンの出荷を始めました。同部会の秋メロンは22haで4人が作付けしています。現在、出荷のメロンは5月上旬に播種したもので、8月下旬より11月中旬まで切れ間なく出荷予定です。以前は同部会でも、秋メロンの作付けも多かったのですが、近年の価格低迷などにより年々、生産者は減少しています。

今年は生育、玉肥大ともに良好で、販売担当の中川慎一職員は「期待以上の大玉で糖度も15度以上あり、美味しく、安全安心のメロンを消費者へ届けることができる」と自信を持っていました。

同部会は、ポジティブリスト制度を遵守するとともに、消費者の手に渡っても生産者が特定できるよう生産者番号入りシールを1玉ずつ貼って出荷しています。

産地の地理的条件生かし 同一市場での有利販売ねらう 西原・蘇陽地区産クリ

9月1日より08年産クリの出荷が本格的に始まりました。集荷場に持ち込まれた栗は、担当者や検査員の手で階級ごとに選別され、箱詰め作業が行われます。今年は受粉時期が天候に恵まれたこともあり、着きゅう数が多いのが特長です。そのためやや小玉傾向にありますが、昨年並みの出荷を見込んでいます。

南部営農センター管内の産地は低地の西原地区と山間部の蘇陽地区に分かれており、昨年度より同一市場への出荷など、それぞれの地理的条件を生かした有利販売に取り組み、消費地へ安定した数量を届けています。今後は中京地区市場を中心に10月上旬まで出荷予定です。両地区の栽培面積は約150ha、出荷数量は1801前後を見込んでいます。

生産者と消費者の交流イベント行われる

ヒゴムラサキ収穫体験ツアー 福岡の消費者との交流を行う

南部なす部会（三森伸治部会長）では8月24日、ヒゴムラサキ収穫体験ツアーを行い、福岡市内より32人の消費者が参加しました。

この収穫体験ツアーは「ヒゴムラサキブランド化研究会」が企画したもので、7月に福岡市で行われた販売促進キャンペーンで応募ハガキを配布し募集したものです。

当日は生産者である森田勝さんのハウスで収穫体験や試食が行われました。森田さんは「阿蘇の大自然の中で育った美味しいヒゴムラサキをよく見て帰ってもらいたい」と話し、参加した親子は「ナスが育っているのは初めて見た。大きいヒゴムラサキが収穫できた」と喜んでいました。

収穫体験作業のあと、同部会女性部員がヒゴムラサキ料理講習会を行い、「ヒゴムラサキ」をさらに美味しく食べる料理方法が紹介されました。また、参加者にはJA阿蘇の夏秋野菜のお土産もプレゼントされました。

三森部会長は「体験ツアーは、実際に作っている所を消費者に見てもらうことで、安心安全な農産物作りに取り組んでいる姿を理解してもらえる。自分たちも消費者を裏切らないような農産物を届けたい」と話していました。

ハウス前で試食する参加者

阿蘇の農業について聞く参加者

ナス収穫を初体験

涼しい阿蘇で農業体験 あぐりんツアー 第2回目を実施

JA熊本中央会は農業体験企画「あぐりんツアー」を8月23日、阿蘇市と小国町で行い、熊本市内などから親子19組38人が参加しました。同ツアーは農業体験を通して農業・農村・JAへの理解を深めてもらうことが目的で、今回で2回目です。

今回のツアーでは、先ず阿蘇市でトマトを栽培している田島重成さんのハウスでトマトを収穫し、トマト選果場を見学しました。次に小国町の小田清さんのジャージー牛を見学、バター作りを体験しました。参加者は生産者の説明を真剣に聞き、慣れない手つきでトマトの収穫や選果場で選別作業をしたり、ジャージー牛に飼をやるなどの体験をしました。

昼食はJA阿蘇女性部手作りによる地元食材を活かした料理を味わいました。

山部賢次JA阿蘇営農部長は「農家が必死で農畜産物を生産していることを、たくさんの消費者に知ってもらうツアーの意義は重要」と話していました。

「あぐりんツアー」に参加した皆さん

▲選果場でトマト選別作業を体験

初めて見たジャージー牛に餌をやる参加者▼

JA阿蘇青壮年部高森支部が高森中央小の子供たちと体験学習

ヒマワリ畑に子供たちの笑顔満開
耕作放棄地を有効利用

大きく生長したヒマワリに歓声をあげた子供たち

青壮年部高森支部が耕作放棄地をヒマワリ畑にして町の観光に役立てようと、高森中央小学校1年生53人と種をまいたヒマワリ畑が満開を迎えました。畑の場所は、高森町の観光スポットである湧水トンネルの隣で、連日、多くの観光客が訪れています。青壮年部の三森伸治支部長は「今年は台風が来なく、6月にまいたヒマワリが大きくなり、子供たちも喜んでくれた。今後はヒマワリの種を利用しヒマワリ油を採るように準備をしている。この活動を通じて高森町にある耕作放棄地が減るように努力したい」と、これからの抱負を語っていました。

農業を通じて将来の生き方を考えよう

将来の生き方や生活を考えようと、高森中央小学校6年生36人が7月31日から2日間、同町にある各事業所で職場体験学習を行いました。

この体験はさまざまな人とのふれあいを通じ、人間関係を築き正しい礼儀作法やマナー、人との接し方、言葉遣いを身につけるとともに、社会性、協調性、コミュニケーション能力を育成するのが目的です。

キャベツの収穫作業や牛の世話を体験する子供たち

農業体験学習ではJA阿蘇青壮年部高森支部が引き受け、各部員の圃場に児童が2人ずつに分かれ、ナス収穫、牛の世話、キャベツ収穫、ミニトマト収穫などを体験しました。

キャベツの収穫体験を指導した同青壮年部員の山室宝誠さんは「農業の仕事は力仕事が多く、小学生にはきつい仕事だったかもしれないが、収穫の喜びを味わったことで少しでも農業に興味をもってもらいたい。この活動を続けて、農業の楽しさを伝えたい」と語っていました。

ダイコンの種まきに挑戦

青壮年部高森支部は9月5日、高森町の畑で高森中央小学3年生46人とダイコンの種をまきました。

これは青壮年部高森支部が高森中央小学校の子供たちを対象に稲の種まき、椎茸のこま打ち、地域にできる野菜の説明など、農業体験の一環として行っているものです。

この日まいたダイコンは「干し理想大根」という品種で2ヵ月後に収穫を迎えます。収穫したダイコンはJA女性部の指導で、切り干しダイコン作りを予定しています。

当日は部員から「野菜の花クイズ」が出され、問題の花が5月に子供たちが植えた野菜の花だったこともあり、全問正解となりました。

本田寅雄同部員は、「ダイコンの種は小さく、子供たちがうまくまけるか心配だったが、上手にまいてくれて安心した。この活動を通じて農業の楽しさを伝えたい」と語っていました。

青壮年部員の指導を受けてダイコンの種まきをする子供たち

まるごとあそっ子スクール
キャンプや川遊びに大きな歓声

7月26・27日、南小国町の甲の瀬キャンプ場で「まるごとあそっ子スクール」のキャンプが行われました。昨年は台風で中止となりましたが、今回は晴天に恵まれ阿蘇郡市の小学校より34人が参加。開会式ではJA阿蘇職員の後藤大さんと一緒に「あそっ子スクールの約束」を唱和しました。

最初の活動は各班に分かれて班の旗作り。それぞれ趣向を凝らした旗が作られ、完成した旗はポールに高々と掲げられました。キャンプファイヤーの点火では職員や青壮年部が山伏に扮し、愉快なパフォーマンスで火がつけられ、炎を囲んで班ごとの出し物が披露されました。途中で激しい夕立に見舞われ中断するというハプニングもありましたが、無事に1日目が終了しました。

2日目は小国郷中央支所に移動してバター作り体験を行いました。担当職員からの説明を受けて原料の入ったペットボトルを一生懸命振り回しました。できあがったバターは早速パンにつけて試食しました。

その後は小国町の遊水峡に移動し川遊びを楽しみました。

青壮年部一の宮支部盟友が坂梨小5年生に稲刈り指導

阿蘇市立坂梨小学校5年生20人が、今年5月に田植えをした青壮年部盟友の水田で「阿蘇コシヒカリ」の稲刈りを体験しました。

米作り体験は8年前からJA阿蘇青壮年部一の宮支部が、小学校と一緒に食育、総合学習の一環で行なっています。

子供たちは宮崎英雄支部長から刈り方を教わり、苦労しながらも5aの広さを約1時間ほどで刈り取りました。子供たちはやや疲れた様子でしたが、「楽しかった」と笑顔で感想を話し、収穫後の白ご飯を楽しみにしていました。

今後の計画としては、学校で収穫祭を行い、青壮年部一の宮支部の盟友も参加し、一緒におにぎりにして食べ、また、白米にして販売などを計画しています。

保育園にトマトを贈る
南部トマト部会

ＪＡ阿蘇南部トマト部会は8月8日、部会員居住地の保育園12ヵ所に部会役員14人が手分けをしてトマトを届けました。長陽保育園では、今村信次部会長が「みなさんの住んでいる地域でできたトマトです。このトマトを食べて大きく育ってください」と、代表の園児3人にプレゼントしました。園児たちは「トマトありがとうございました」と元気よくお礼の言葉を述べました。部会では4年前より地元保育園へ食材の提供を行っており、今村部会長は「自分たちの住んでいるところで、どんな野菜ができているのかを知ってもらい、農業への関心も持ってもらいたい」と話していました。また、ＪＡの中川慎一販売担当職員も「将来を担う子供たちに少しでも役に立てられると嬉しい」と話していました。

新鮮なトマトをプレゼントされ
大喜びの保育園児

最優秀賞に井川美香職員
窓口ロールプレイング大会

ＪＡ阿蘇は8月30日、信用窓口ロールプレイグ大会（窓口応対コンクール）を一の宮中央支所で開き、各店舗から18チームが参加しました。

丸山信義会長が「今回は提案力や情報力が重要なポイント。演技として終わらずに通常の業務でも活かしてほしい」とあいさつ。

審査員を農林中央金庫から迎え、競技の結果、最優秀賞に年金と退職金について競技した阿蘇町中央支所の井川美香さん。優秀賞にＪＡカード等を推進した産山支所の高橋なるみさんと、住宅ローンについて取り組んだ一の宮中央支所の村上ひろみさんが選ばれました。

ＪＡバンク

年金無料相談会のお知らせ

平成20年　11月23日（日曜日）に
高森中央支所にて行います。

TEL　0967-62-0521

時間
午前9時～午後3時

お気軽にご相談下さい。

お電話でご予約お待ちしております

写真上＝競技で年金と退職金について説明する井川職員

写真下＝右から高橋・井川・村上の各職員

JA阿蘇職員のさわやかプレー光る!!

第7回JA阿蘇親善野球大会

長陽中央支所チームが初優勝

熊本県役職員野球大会の予選を兼ねた第7回JA阿蘇親善野球大会が7月12日、産山村運動広場で開催され7チームが出場。長陽中央支所チームが初優勝を飾りました。

開会式で中尾雄二組合長は「親睦を図ると共にケガのないようにがんばって下さい」とあいさつ。選手宣誓を前年度優勝の一の宮中央支所チームの石田義則選手が力強く行いました。長陽中央支所は2回戦で西原・久木野チームを6対1で破り、決勝戦は阿蘇町中央支所チームと対戦。先制をしながら逆転されましたが、最終回に再逆転し初優勝しました。市原恵二主将は「今年は若いすばらしい選手が揃い、決勝でもだめと思ったときもあったが、みんな力を出してくれた」と優勝の喜びを語っていました。

JA熊本県親善野球大会

健闘むなしく2回戦で惜敗

長陽中央支所チーム

7月26日、第33回JA熊本県親善野球大会が菊池恵楓園で開催され、JA阿蘇大会で優勝した長陽中央支所チームが初めて出場しました。同チームは若いメンバーで構成。1回戦はJAあまくさ、ピッチャーの宮崎選手を中心に堅い守りで3対2で勝利。2回戦は今大会3位入賞のJAやつしろ。チャンスを作りながらも得点できず3対0で惜敗しました。

開会式に臨んだ長陽中央支所チーム

◀まとめ役としてチームを引っぱった下田選手

▶高校時代野球部で活躍した中村選手

JA熊本県親善ソフトバレー大会

JA阿蘇から4チーム出場

阿蘇町チーム、ベスト8

第33回JA熊本県親善ソフトバレー大会が9月6日、合志市総合体育館で開かれ、JA阿蘇予選を勝ち抜いた4チームが出場しました。

大会には県下JA・連合会の13団体の34チームが9コートで予選を行い、小国郷チーム、南部地区チーム、一の宮チームは敗退しましたが、阿蘇町チームは予選を3戦全勝で決勝トーナメントへ進出。決勝トーナメントではJA熊本市と対戦し惜しくも破れましたが、堂々のベスト8となりました。

業務終了後の練習で選手の皆さんは大変でしたが、来年こそは優勝を狙ってがんばって下さい。応援の皆さんもお疲れさまでした。

34チームが出場したソフトバレー大会開会式

ベスト8の阿蘇町チーム

JA阿蘇　ドラコン県大会団体部門で「最優秀賞」、個人部門で藤澤さん「優秀賞」・北崎さん「優良賞」

■ドラコンJA阿蘇大会 北崎智泰職員が最優秀賞

ドラコンJA阿蘇大会に出場した職員の皆さん

JA阿蘇購買部は8月5日、管内久木野給油所にてドライブウェイサービスコンテスト（ドラコン）JA阿蘇大会を開きました。

室原昭博購買担当常務が「価格高騰により利用者の方は少しでも安い所に給油に行かれる。しかし価格が一緒であればサービスが良い所を選ばれる。選手の皆さんはSSの代表者として、日常の訓練・営業の中で培われた態度・言葉が競技に出して、皆の模範として競技して頂きたい」とあいさつ。今大会には接客・点検・技術サービスの向上を図るとともに、経営の強化に資する目的を掲げ、管内各SS選抜の13人が出場しました。審査はJA熊本経済連燃料課が担当し、接客態度など基本的なことから、洗車や不具合箇所の説明・推進といった応用的なことまで、詳細にわたり厳しくチェックしました。

入賞者は次の通りです。

▽最優秀賞＝北崎智泰（久木野SS）▽優秀賞＝藤澤　朋志（西原SS）・坂本晃（黒川SS）▽審査委員長特別賞＝上野将志（長陽SS）

上位入賞の北崎・藤澤両職員は9月7日同会場で行われた県大会に出場しました。

■ドラコン熊本県大会 北崎・藤澤両職員とも最高の演技を披露

9月7日、JA・SSドライブウェイサービスコンテスト熊本県大会が管内久木野SSで開催されました。県内JAの代表者21人が参加し、JA阿蘇からは地区予選を勝ち抜いた北崎智泰職員と藤澤朋志職員が出場しました。

この大会はJA・SSスタッフの接客・点検・技術サービス向上を図るとともに、経営の強化に資することを目的に毎年開催されており、今年で31回目となります。

審査は、接客・安全・技術の各サービスと総合印象の全4部門で、県下JA代表所長や全農、経済連の担当者17人が行いました。

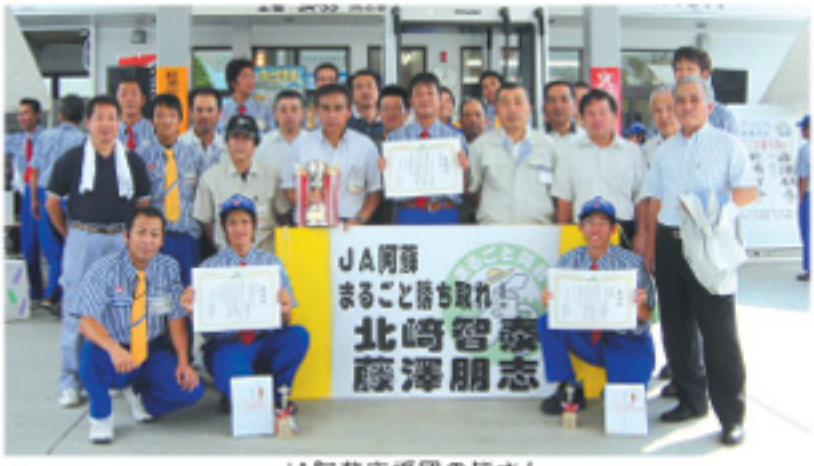
4番目に競技した北崎選手はJA職員になり3年目。毎年、JA阿蘇大会に出場しており、県大会も2度目の出場です。開催地が地元SSということもあり、応援者多数の中、本田恭輔久木野中央支所長に「優勝宣言」をして競技に臨みました。大きな声のタイヤ点検、お客様に対して待ち時間を飽かせない接客態度、不具合箇所交換の丁寧な説明など完璧な演技内容でした。

11番目に競技した藤澤選手は現在、西原SSでアルバイトしながら専門学校で大好きな自動車整備を学ぶ学生で、今年で2年目。日頃学んでいる技術を活かし、車輌の誘導、お客様への対応と笑顔あふれる演技で日頃の接客ぶりを全面に出し切りました。審査の結果、藤澤職員が優秀賞を北崎職員が優良賞を受賞し、団体部門ではJA阿蘇が16年ぶりとなる1位「最優秀賞」を受賞しました。

購買部の松岡勝也職員は「2人とも最高の演技でした。毎日、営業終了後遅くまで練習した結果です。予選会を含め2ヵ月以上と長い期間の練習、大変お疲れさまでした」とねぎらっていました。

藤澤職員の演技

北崎職員の演技



JA阿蘇応援団の皆さん

理事会・監事会報告

■平成20年度第8回理事会

日時　平成20年8月29日午後1時30分
場所　一の宮中央支所会議室
1.開会
2.組合長挨拶
3.協議事項
　7月末実績について
　1)信用評定規程の一部改正について
　2)21世紀農業フォローアップ資金貸出金利(一部)変更について
　3)熊本県飼料・燃油価格高騰緊急対策資金について
　4)貸出金について
　5)全国監査機構平成19年度決算監査の内部統制等に関する改善指示書に対する回答について
　6)要点検JA指定の件について
　7)Aコープ蘇陽店舗の賃貸契約について
　8)平成20年産出荷契約米の概算金について
　9)就業規則の一部改正について
報告事項1　肥料飼料手数料検討案報告について
報告事項2　熊本県農業経営危機突破大会について
報告事項3　平成20年度上期仮決算棚卸監査に伴う休業について
報告事項4　名刺作成について
4.閉会

■平成20年度第9回理事会

日時　平成20年9月29日午後1時30分
場所　一の宮中央支所会議室
1.開会
2.組合長挨拶
3.協議事項
　8月末実績について
　1)米麦等棚卸監事監査報告について
　2)平成20年度JA阿蘇不祥事ゼロ運動計画の策定と実践について
　3)肉用牛管理施設及び肉用牛繁殖雌牛貸付規程の変更について
　4)経理規程及び有価証券等の保有目的区分要領の改正について
　5)信用事業方法書の変更について
　6)貸出金について
　7)農業委員会委員の選任について
　8)有限会社神楽苑取締役の選任について
　9)久木野給油所のLPガス倉庫取得について
報告事項1　JA阿蘇経営事業改革プロジェクトメンバーについて
報告事項2　平成20年度「不祥事ゼロ運動」強化月間の取り組み結果報告について
報告事項3　平成20年度上期仮決算棚卸予備監査の実施について
報告事項4　日本農業新聞の全役職員年間講読運動について
報告事項5　熊本県飼料・燃油価格高騰緊急対策資金の一部見直しについて
報告事項6　JA阿蘇農業経営危機突破対策1,800万円の内容について
報告事項7　20年産米の集荷実績報告について
4.閉会

●平成20年度第5回監事会

日時 平成20年8月21日　場所 本所会議室
1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
　1)平成20年度米麦等棚卸監事監査報告書(案)ついて
　2)平成20年度上期棚卸監事監査実施(案)について
　3)その他

●平成20年度第6回監事会

日時 平成20年9月22日　場所 本所会議室
1. 開会
2. 挨拶
3. 議題
　1)平成20年度上半期棚卸監事監査実施及び人員配置・実施場所(案)について
　2)平成20年度上半期棚卸監事監査実施手続きについて
　3)平成20年度上半期事務監事監査実施(案)について
　4)その他

■JA阿蘇職員異動のお知らせ■

氏　　名	新　辞　令	発令年月日	旧　辞　令
後藤　洋介	中部営農センター園芸課販売係（産山駐在）	平成20年8月1日	一の宮中央支所購買課購買係（一の宮グリーン）
石田　　元	阿蘇町農機車輌センター車輌主任	平成20年9月1日	阿蘇町農機車輌センター車輌係
木下　伸一	阿蘇町農機車輌センター農機員主任	平成20年9月1日	阿蘇町農機車輌センター農機員係
工藤ひとみ	波野支所長代理	平成20年10月1日	一の宮中央支所共済課共済係
田中　幸博	営農部園芸課長	平成20年10月1日	中部営農センター園芸課長
斎藤　博嗣	中部営農センター園芸課長	平成20年10月1日	中部営農センター園芸課園芸係統括
荒木美智代	阿蘇町中央支所金融課金融係	平成20年10月1日	営農部事業開発推進係
井野加代子	購買部購買課購買係	平成20年10月1日	金融共済部保全課保全係
吉澤　洋祐	一の宮中央支所共済課共済係	平成20年10月1日	波野支所金融共済渉外係
高橋　直子	産山支所金融共済係	平成20年10月1日	事務電算室事務電算課購買事務処理係
澤田　久美	馬見原支所購買係	平成20年10月1日	蘇陽中央支所購買課Aコープ蘇陽店長
高橋なるみ	金融共済部保全課保全係	平成20年10月1日	産山支所金融共済係
筑紫　大輔	波野支所金融渉外係	平成20年10月1日	波野支所購買係
高野　大輔	金融共済部貯金融資課貯金融資係	平成20年10月1日	阿蘇町中央支所金融課金融係

米の生産調整を実施されている皆様へ

水田経営所得安定対策の収入減少影響緩和交付金は、生産調整実施者のメリット措置として機能し、本対策加入者である担い手（認定農業者及び集落営農組織）の収入回復を図る仕組みとなっています。

対策の詳しい内容は、九州農政局ホームページの重要情報の「水田経営所得安定対策」に掲載しています。（URL：http://www.maff.go.jp/kyusyu/）また、下記の水田経営相談窓口（愛称：農政安心ダイヤル）又はお近くのJAにお問い合わせいただいても結構です。

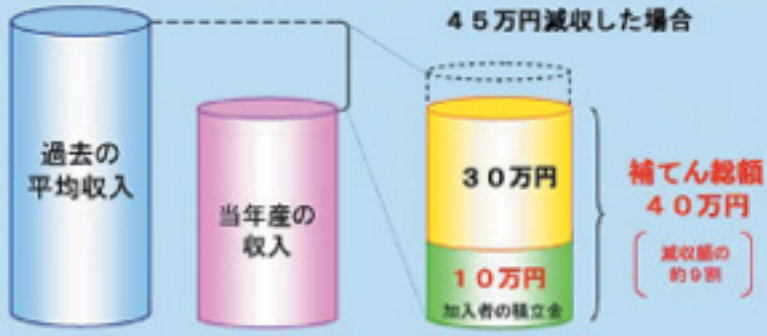
九州農政局　担い手育成課　TEL 096－353－7626

水田経営所得安定対策
（収入減少影響緩和交付金）

生産調整を実施されている担い手の皆さんへ

- ○ 過去の平均的な収入より当年産の収入が下がった場合、収入減少額の9割が補てんされます。
- ○ 補てんによって収入がほぼ回復します。
- ○ 積立金は掛け捨てではないので決して損をすることはありません。
- ○ 補てん額は、対象品目である米、麦、大豆のそれぞれの過去の平均収入と当年の収入との差額を合算・相殺し算定されます。

例えば、１０万円を積み立てて、収入が下がったら最高４０万円受け取ることができます！（下図参照）



＊補てん額は、当年産の実単収が平年単収の9割を下回った場合、農業災害補償制度が発動したものとみなし、共済金相当額が控除されます。

九州農政局